

令和3年度 学校自己評価表 評価シート(中間)

三次市立作木小学校

学校教育目標 ふるさとに学び たくましく生きる子どもの育成 一元気 本気で 最後まで				達成度＝達成値÷目標値×100 A: 目標以上 B: 達成度が目標の80%以上100%未満 C: 達成度が目標の60%以上80%未満 D: 達成度が目標の60%未満		学校関係者評価 A: 適切 B: 不適切 C: 分からない		
中期経営目標	短期経営目標	1年後に目指す姿(評価指標)	具体的な実践項目	10月	2月	評価結果と改善策	関係者評価	ご意見
				達成値	達成値			
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	① 国語・算数・理科・社会の単元末テスト80点以上の児童の割合が80% (中間評価…1～6年)	○ドリルタイム、常清タイムにおいて、「書きとり」「読みとり」「計算」を継続して練習し定着させる。	A		《全校結果》4教科平均達成度【109】 ○国語93.0%達成度【116】 算数86.0%達成度【107】 社会85.3%達成度【106】 理科85.3%達成度【106】 《考察・改善策》 ○4教科とも目標を達成している。特に国語科の知識・技能がよく定着している。常清タイム等を活用して漢字の書き取りや読み取りを継続して取り組んだ成果が出ている。ドリルタイムでは、主に算数科の計算等の技能定着を図っているが、目標を立てたり、努力の跡を見える化したりして工夫した成果が表れている。一方、個人差が大きいことが課題であり、今後は、個に応じた支援を充実させながら、今までの取組を継続していく。	A	・評価は適正である。 ・学年別では、目標達成とならなかった教科については、引き続き課題分析→授業改善→個に応じた学習指導の充実をお願いします。 ・目標に達している学年が多く、確実な習得となっている。 ・基礎的学力は習得できていると思う。分母が少ないので、学年別は目標値に届かないのが残念である。 ・ドリルタイム、常清タイム等の取組によって、基礎的な学力の定着が図られていると感じます。今後も継続した取組をお願いします。 ・小学校卒業までに、小学校の基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように、組織的な取組をお願いします。
		② 三次市学力到達度検査において全国平均を上回っている児童を70%以上。(年度末評価)	○東書WEB等を活用し、個別最適な学びの充実を図る。			○東書WEBのプリントを家庭学習やドリルタイムで活用し、授業で学習した基礎・基本(知識・技能)の反復練習をして定着を図っている。また、授業中の隙間時間にタブレットのタブレットドリルや漢字や計算のアプリを使って、自分に合わせたレベルを選択して反復練習に取り組んでいる。休憩時間や放課後の時間を使って間違いを直したり、個別の指導を行ったりしている。個々がどこでつまづいているのかを把握して、学校支援員を活用して、継続して個別に応じた課題に取り組ませたり、個別指導の時間を設定したりして個人差に対応していく。		
	見方・考え方を働かせた指導から、説明力(思考力、表現力)を向上させる。	① 三次市学力到達度検査(算数の活用)において、全国平均を上回っている児童が70%以上。(年度末評価)	○「見方・考え方」を働かせた指導の在り方の視点から、1人年2回以上の授業研究を行う。 ○小中合同研修会を通して、説明力の質の向上をめざした授業改善を行う。			○「数学的な見方・考え方」について研修し、それを活用した授業研究を進めることができた。具体的には、「数学的な見方」を働かせるための本時の視点に導く工夫や数学的活動を促す工夫について、全学年の指導案検討と模擬授業を実施した。現段階で、9月の研究会を含め1人1回以上の授業研究を行った。2月までには、1人2回以上の授業研究を行う計画である。今後、全ての授業研究と三次市学力到達度検査の結果分析を通して、研究の有効性を検証していく。		
豊かな学力の育成	主体的に学習に取り組む態度の素地を養う。	① 読書目標(1ヵ月)の達成率65%以上。(実態調査) 低学年: 30冊以上 中学年: 350ページ以上 高学年: 500ページ以上	○「スタディ・ウィーク」「作木っ子の学びのすすめ」を活用する。 ○作木図書館と連携し、読書習慣の形成を支援、読書環境を整える。 ・本の紹介、読書カードへの記入 ・学級への本の貸し出し ・読書量の達成者への評価	A		《全校結果》 全校: 30人/44人(68%) 達成度【105】 低学年: 4人/10人(40%) 中学年: 14人/14人(100%) 高学年: 12人/20人(60%) 《考察・改善策》 ●中学年(100%)に対して、低学年(40%)、高学年(60%)の数値を上げる必要がある。高学年は、比較的読書通帳の記入があるが、低学年は記入が少ないことが分かった。 ●読書通帳を記入する時間を必ずとって記録漏れがないようにする。 ●委員会活動で毎月の表彰を行う等、児童の意欲を高める。	A	・評価は適正である。 ・新たに県立図書館との連携事業を取り組まれていることは大変有意義です。 ・中学年の取組を今後、低・高学年に広げていくことを期待します。 ・目標を高くもち、意欲的な取組となっている。 ・読書をするのが語学力や表現力などの知識の習得にもつながるので、引き続き達成率の向上を望む。 ・3、4年生の取組の成果が出ています。全校に広げてみる方法もあると思います。
		自己肯定感を高める。	① 学校生活に関する児童アンケート、i-Checkの項目について肯定的回答80%以上。 ・「自己肯定感」、「思いを伝える」、「お互いを認め合う」 ・自己評価・相互評価			○掲示等の見える化を図り、具体の姿で指導する。 ○児童会で月目標、全校での取組を仕組む。 ○学級会活動や児童会活動で集団遊びを計画し、異学年との関わりも深める。 ○学校生活のあらゆる場面で、協力して活動し、達成感をもたせる。		
豊かで健やかな心身を育成	体力を向上させる。	① 新体力テストの全国平均以上の項目を70%以上。(学年末評価)	○脚力・跳躍力を高める運動を取り入れる。 ○運動量を確保した体育の授業を実施する。 ○外遊びを奨励する。 ○めあてをもった体力づくりに取り組ませる。(記録カード等) ○新体力テストの課題項目について、再テストで検証する。	B		《全校結果》 ○新体力テストの総合評価のAB率65.9%、DE率11.4%である。(AB-DE)率54.5% 昨年度と比較し、昨年度AB率75.5%(今年度-9.6%)DE率10.2%(今年度-1.2%)であり、AB評価に達する児童数が低下した。 ○昨年度課題の大きかった立ち幅跳び(女子)に関しては、令和2年度には、全国平均値を下回っていたのは6学年中5学年であったが、今年度全国平均値を下回ったのは6学年中3学年となり改善が図られた。6月の体力テストでは、ソフトボール投げと50m走に課題が大きかった。 《考察・改善策》 ●コロナ禍において、外出する機会が減少し、運動をする機会が減っている。また、家同士の距離も遠く、友達同士で遊ぶのが困難な状況にあるのも体力低下の原因として考えられる。 ○『小中合同体力向上プロジェクト』を設定し、各家庭での体力づくりの機会を増やす取組を行う。 ○体力づくりでのマラソンや体力づくり運動を実施し、体力を高める。 ○ミニスポーツフェスタや体力テスト、なわとび記録会などの行事を目標に、個人で目標を立て、達成に向けて努力させる。また、頑張りや肯定的に評価する。	A	・新体力テストで把握できた課題への取組をお願いします。 ・休憩時間を利用してのマラソン練習などは、意欲を高める独自の取組として効果があり、有意義だと思います。 ・目標を上回る項目がほとんどで、日々の家庭や学校での取組の成果の表れだと感じる。 ・毎日家庭で日々の積み重ねとなる努力を個々がしていく必要があると感じる。子ども教室に通っているため、家でしているのを見かけない。 ・中学校でも課題です。小中学校ともに、駅員の取組等がコロナ禍の中で十分にできない状況があったと思います。継続した体力向上の取組が必要だと思います。
		学校への関心・信頼度を高める。	① 保護者・地域のアンケートにおいて、肯定的評価85%以上。(情報発信・教育内容公開・学習発表会・学校満足度等) [② 「作木ふるさと学習」後の児童の振り返りや手紙の内容から成果(感動・感謝・生き方)を検証。作木のよさを知り大切に思う児童の割合を90%以上。(学年末評価)			○学校、学級、保健便り等の計画的な発行と日常的なホームページ更新を通して、情報情報発信を行う。 ○教育相談体制の充実を図る。 ○学習発表会や「作木ふるさと学習」等を他教科とつながりのある学びから、地域に関わり貢献しようとする児童を育成する。		
愛され、信頼される学校	学校への関心・信頼度を高める。	① 保護者・地域のアンケートにおいて、肯定的評価85%以上。(情報発信・教育内容公開・学習発表会・学校満足度等)	○学校、学級、保健便り等の計画的な発行と日常的なホームページ更新を通して、情報情報発信を行う。 ○教育相談体制の充実を図る。	A		保護者対象の学校アンケートの結果の肯定的回答は次の通りである。(回収率95.4%)達成度【104】 ①お父さんは、「学校は楽しい。」と言っている 95% ②お父さんは、「学習したことがよくわかる。」と言っている 83% ③お父さんは、家庭学習の習慣が身に付いている 74% ④お父さんは、ふるさと学習によって作木のことを学んでいる 93% ⑤学校は、学校だよりやHP等を通して、教育方針や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている 95% 《考察・改善策》 ○学校アンケート(全保護者対象)からは、概ね肯定的な評価を受けている。とりわけ、学校は楽しい、ふるさと学習、学校からの情報発信の満足度は高い。学習面や家庭学習については、個別の支援を継続して行うと同時に、学習状況を分かりやすく保護者に伝える工夫を図っていく。	A	・評価は適正である。 ・保護者アンケートの高い数値は、コロナ禍の状況の中でも、学校だよりやHPなどによる情報発信による家庭と学校の連携が取られている実績と認識できます。今後も継続した取組を期待します。 ・保護者アンケートからも、子どもたちが学校へ楽しく通っていると感じておられ、学校からの発信に満足しておられることがよく分かる。 ・作木ふるさと学習は、地元を知るよい機会と感じるので継続してもらいたい。 ・コロナ禍の中で、生徒の体験活動や表現する場をつくることのできるよう苦心されている様子が伝わります。
		② 「作木ふるさと学習」後の児童の振り返りや手紙の内容から成果(感動・感謝・生き方)を検証。作木のよさを知り大切に思う児童の割合を90%以上。(学年末評価)	○学習発表会や「作木ふるさと学習」等を他教科とつながりのある学びから、地域に関わり貢献しようとする児童を育成する。			○感染症対策により、校外での「作木ふるさと学習」は、計画通りに行うことができない状況が続いている。【7月2日:常清滝見学(1・2年)、7月5日:プッポウウ観察小屋(3・4年)、7月15日:林業の学習(5年)】 ○「作木ふるさと学習」を終えた児童の感想やお礼の手紙の内容からは、作木の良さや自然の豊かさを実感し、地域の方に対する感謝の気持ちが読み取れる。 ○「作木ふるさと学習」の様子については、学級・学校だよりやホームページを通して、保護者や地域に発信している。 《考察・改善策》 ○引き続き、感染症対策を講じながら「作木ふるさと学習」に取り組むとともに、学校教育目標にある「ふるさとに学びたくましく生きる子どもの育成」につながるよう、作木のよさを知り大切に思える教育内容をつくっていく。		